

■神奈川県中小企業団体中央会

「環境経営ネットワーク」

58号 2004/07/15 発行

■環境会計と企業経営

1. 環境に対する関心の高まり

近年、企業の間では環境に関する意識が高まっており、経営理念及び経営戦略の中に環境保全を取り込まない企業は淘汰される恐れがあるという認識が始まっています。

環境省が平成14年に約6,400社の企業に対し企業の環境に対する行動についてアンケート調査を行い、2,967社（上場企業1,323社、非上場企業1,644社）から有効回答を得て、平成14年度企業行動調査（H15年7月公表）としてまとめられています。

それによると、企業の環境に関する考え方の上位は

1. 社会貢献の一つである : 40.3%
2. 業績を左右する重要な要素である : 29.9%
3. 最も重要な戦略の一つである : 22.0%

となっており、環境保全に関する意識は年を追って高くなっていることが報告されています。

一方、環境負荷の少ない資材を購入するグリーン購入については、そのガイドライン又はリスト等を作成し、すでに実施している企業と予定している企業を併せると61.1%であり、対前年比6.7%の増加となっています。

また、環境報告書を作成して公表している企業数は平成14年度では650社であり、平成15年度には900社に達すると予想されています。

2. 環境会計導入の活発化

環境省では、平成13年2月に「事業者の環境パフォーマンス指標」を発表し、平成14年3月に「環境会計ガイドブック」を発行しています。

これらは、企業経営の環境保全への取組の評価基準になるものであり、発注企業の中には、グリーン調達を推進する上から協力企業選出の条件に、環境保

全への取組評価項目を加える企業数が増加しています。従って、受注する側の企業としては、受注機会の損失を防止するために環境対策に積極的に取り組んで行くことが今後更に必要と考えられます。また、環境対策に取り組んでいることを証明するためにも環境会計の導入が必須要件となると予想されます。

### 3. 環境会計の定義と機能

環境会計とはどのような内容であり、どのような役割を果たすのでしょうか。環境省または経済産業省等の行政機関における定義を要約すると、環境会計とは、「企業の環境保全活動を効率的に進めることで得られる収益を財務諸表の上で明確に表示するもの」であると言えます。営業活動の中に環境保全または環境マネジメントシステムを取り込むことによって、収益率の改善が図られ、業績の拡大となることが考えられ、それは次のような事項を示します。

- (1) 製造原価の削減・・・歩留まり率改善効果による資材購入量の減少
- (2) 経費の減少・・・水道料金・電力量料金、廃棄物処理費の削減
- (3) 売上高の増加・・・環境対策が評価されることによる新規顧客の増加

環境省の「環境会計ガイドブック」では、環境保全対策とその効果を金銭的表示あるいは物量で評価するように、以下のように詳細に規定されています。

(1) 環境保全コスト・・・環境負荷発生の防止、抑制又は回避等のための投資及び費用の6項目であり、それぞれが具体的に細分類されています。

1) 事業エリア内コスト：公害防止対策、地球環境保全、資源循環のために実施した内容のコストをそれぞれに表示

- 2) 上下流コスト：グリーン購入と通常購入の差額等6項目に分類
- 3) 管理活動コスト：環境マネジメントシステム構築・運用費用等4項目
- 4) 研究開発コスト：環境に配慮した製品設計開発等3項目
- 5) 社会活動コスト：緑化など環境改善対策コスト等4項目
- 6) 環境損傷コスト：自然破壊の修復費用など3項目

(2) 環境保全効果・・・環境負荷低減などの効果を物量単位で評価する

(3) 環境保全対策に伴う経済効果・・・利益に貢献した効果の金額評価

以上は項目だけを紹介しましたが詳細は「環境会計ガイドブック」に説明されています。これらは環境報告書の内容と整合性が図られていることが必要となります。

#### 4. これからの中小企業経営のあり方

環境省は、今年度より中小企業を対象に経済的な負担を少なくできるように環境マネジメントシステムを構築するISO14001の中小企業版とも言える「エコアクション21」の普及を検討しています。環境施策は強化される基調にあり、環境保全対策は企業存続の上からも取り組まなければならない要件となっています。

企業は、経営実績を公表する損益計算書等の財務諸表作成に環境会計を取り入れて、基準年度（前年度）との比較により環境保全への取組の実態を評価し、必要があれば、何時でも公表できる体制を整備しなければならないと思われます。

神奈川県技術士会 環境マネジメントセンター 野村 亨

-----  
「環境経営メールマガジン」の全過去ログを見ることができます。

<http://itnet.chuokai-kanagawa.or.jp/chuocomdb/mm.html>

また、環境経営メールマガジンの他にも、IT、生活、技術などメールマガジンを発行しております。（上記URLで内容を参照できます）

是非、ご一読を・・・！

-----  
神奈川県中小企業団体中央会 <http://www.chuokai-kanagawa.or.jp/>  
メールマガジン「環境経営ネットワーク」